

男子第一部

男子第1部は、連覇を狙う日本中央競馬会と全日本選手権覇者高橋を擁し、10年ぶりの厚生労働大臣杯を手中に入れたい新日本製鐵、そして去年の雪辱をはらしたい旭化成、この強豪3チームによる熾烈な戦いを繰り広げた。

第1回戦

東芝	4	-	0	戸高鋳業社
(先鋒) 志村 優太	3段	⊖ (払巻込)		崎村 栄一郎 2段
(次鋒) 久米川弘文	2段	引分		高橋 光一郎 4段
(中堅) 松岡 禎基	3段	反則勝		乙名 将吾 4段
(副将) 鈴木 盛将	2段	小外刈		崎村 和幸 2段
(大将) 奥井 真也	3段	小内刈		細田 真史 3段
ダイコロ	1	-	2	京葉ガス
(先鋒) 宮下 和也	3段	合せ技		花本 隆司 3段
(次鋒) 谷本 義人	3段	⊖ (指導2)		中濱 真吾 5段
(中堅) 合田 良太	3段	引分		須藤 紘司 4段
(副将) 佐々田裕良	3段	腕挫十字固		河原 正太 3段
(大将) 稲葉 将太	3段	引分		紺野 大輔 3段
了徳寺学園	4	-	1	九州電力
(先鋒) 森本 翔太	3段	引分		森 俊介 3段
(次鋒) 穴井 亮平	3段	大内刈		近藤 雅和 3段
(中堅) 西村 久毅	3段	一本背負投		川野 達也 3段
(副将) 佐藤 武尊	4段	小内刈		山本 泰三 3段
(大将) 矢寄 雄大	5段	⊖ (指導2)		川波 慎太郎 5段

ALSOK 5 - 0 日本通運

(先鋒) 今井 敏博 3段	大外刈	石原 拓 3段
(次鋒) 生田 秀和 5段	縦四方固	樋口 正人 3段
(中堅) 法兼 真 4段	大内刈	篠田 盛継 3段
(副將) 村上 和幸 3段	反則勝	濱端 洋益 3段
(大將) 小林 大輔 3段	大内刈	北山 剛 4段

第2回戦

旭化成 A 2 - 0 了徳寺学園

(先鋒) 大鋸 新 5段	上四方固	西村 久毅 3段
(次鋒) 高井 洋平 4段	引分	森本 翔太 3段
(中堅) 増淵 樹 3段	引分	穴井 亮平 3段
(副將) 塘内 将彦 5段 ⊖	優勢勝	佐藤 武尊 4段
(大將) 西潟 健太 3段	引分	矢寄 雄大 5段

日本中央競馬会 3 - 0 東芝

(先鋒) 佐藤 充弘 4段	小外刈	鈴木 盛将 2段
(先鋒) 鈴木 龍 4段	引分	志村 優太 3段
(中堅) 立山 広喜 4段 ⊖	(指導2)	松岡 禎基 3段
(副將) 石井 竜太 4段 ⊖	(指導2)	久米川弘文 2段
(大將) 山本 宜秀 4段	引分	奥井 真也 3段

新日本製鐵 3 - 0 ALSOK

(先鋒) 西山 将士 4段	裏投	今井 敏博 3段
(次鋒) 森田 祥一 4段	大内刈	小林 大輔 3段
(中堅) 高橋 和彦 4段	大外刈	法兼 真 4段
(副將) 斎藤 俊 3段	引分	村上 和幸 3段

(大将) 吉永 慎也 4段 引分 生田 秀和 5段

旭化成 B - 0 京葉ガス

(先鋒) 野田 嘉明 3段	(支釣込足) ⊖	中濱 真吾 5段
(次鋒) 西田 泰悟 3段	引分	花本 隆司 3段
(中堅) 辻 玄太 3段	引分	河原 正太 3段
(副将) 出口 雅樹 3段	引分	須藤 紘司 4段
(大将) 田中 貴大 3段	払巻込	紺野 大輔 3段

準決勝戦第1試合

日本中央競馬会 2 - 0 旭化成 B

(先鋒) 山本 宜秀 4段	引分	辻 玄太 3段
(先鋒) 片淵 慎弥 4段	引分	田中 貴大 3段
(中堅) 立山 広喜 4段	引分	野田 嘉明 3段
(副将) 石井 竜太 4段	小内刈	出口 雅樹 3段
(大将) 鈴木 龍 4段	引分	西田 泰悟 3段

先鋒戦。左組み同士の対戦も、序盤は山本は体格で上回る辻に奥襟を許さず、辻は自分の持ち手に拘って、両者組み合わず1分8秒に両者指導1。中盤に入っても、互いに自分の組み手を求めて組み際の駆け引きが続く。終盤になってようやく、組み際に有利になった方が(辻 - 内股、払腰、山本 - 大外刈、背負投)を仕掛け、互いに相手を脅かすが、一步及ばず引き分ける。

次鋒戦。片淵のパワーを警戒する田中は、間合いを取って片淵の攻撃を封じるも攻めを欠き、1分58秒組み際の片淵の一本背負投を防いだところで指導1を受ける。しかしその後は、はやる片淵の機先を制するように田中は組み際の背負投、巴投で攻勢を演じる。終盤に至るも、時を稼ぐ田中のクレバーな試合運びに片淵はペースを乱され、時間を消費させられて引分。

中堅戦。身長で21cm、体重で50kg差の両者の対戦。まともに組み合えば分が悪い野田は、立山にケンカ組み手の左引手を許さず。引き手の取れない

今秋の世界選手権東京大会無差別級代表の立山は、開始35秒巨体を利して左釣手から強引な払腰を掛け、崩れた野田を裏返して、1分2秒横四方固で抑え込むが、野田は6秒で振り解く。その後、野田は右釣手を下から突き上げ、立山に引手を許さず、自らはしっかり握って立山の攻撃を封じるが、殆ど攻撃は叶わず立山の散発的な両襟からや釣手だけの払腰を受ける。そのため残り43秒に指導1を受けるが、そこまでに踏み止まり、その後の立山のがむしやんな攻めをよくしのいで引分に持ち込む。

副将戦。一回り体格の劣る出口は、臆さず右で堂々と組み合う。1分2秒に指導1を石井から奪い、その後も強引とも思える大外刈、大内刈で攻め、石井はこれを大外返し、裏投で応じる。2分29秒には技の出ない石井に更に指導2が与えられる。中盤以降は、リードされた石井が強引な大外刈、大内刈、大外巻込で反撃に転じ、対する出口もこれに応じて両者力技の応酬となる。こうして迎えた4分過ぎ、石井は組むと同時に右足で出口の右足を刈り込み、出口はこれを大外返しで切って落とそうと踏ん張る一瞬、石井は軸足の左足で出口の左足を小外刈で刈り込みながら体を浴びせると、出口は重心が崩れ背中から畳に落下。石井が均衡を破る一本勝を収める。

大将戦。ケンカ組み手の両者、西田は追い掛けたいところながら、体重に勝る鈴木の圧力に押され攻めが出ず55秒に指導1を受ける。何とか局面を打開したい西田は動きを強めるも勝機を得られず時間を浪費する。3分58秒には組み合わない両者にそれぞれ指導2、指導1が与えられ鈴木にポイントを許す。そして、そのまま時間となり日本中央競馬会が2年連続決勝戦進出を決める。

準決勝戦第2試合

旭化成 A	1	-	2	新日本製鐵
(先鋒) 高井 洋平 4段		大外刈		森田 祥一 4段
(次鋒) 西潟 健太 3段		(支釣込足) ⊖		西山 将士 4段
(中堅) 塘内 将彦 5段		引分		高橋 和彦 4段
(副将) 増淵 樹 3段		引分		斎藤 俊 3段
(大将) 大鋸 新 5段		横四方固		吉永 慎也 4段

先鋒戦。大型同士の両者、左がっぷりで共に奥襟の組み手を探る。先に仕掛け

たのは高井。左大内刈、左大外刈を放つも森田は難なくこれを捌く。1分25秒、受身の森田に指導1。その後も高井は、得意の大内刈で森田を追い込むが決めるに到らず。中盤に入って森田は、左払巻込や左払腰を高井に見舞うが、高井は余裕を持って受ける。後半には再び、高井が大内刈、左内股で攻撃するも、引き付けが不十分で森田は受け流す。こうした展開の中、3分過ぎに今度は森田が高井の背中奥深く叩き、左小外掛から体を浴びせて行けば、3分14秒、高井は尻から崩れて有効となる。リードして勢いに乗った森田ががっぷり組み止め、いったん高井を引き付け、それを緩めて間合いを離れたその瞬間の3分42秒、逆に十分な間合いとなった高井が、鋭く左大外刈で刈り込むと、森田は真下に倒れ落ちる。見事な一本で旭化成が貴重な先制点を挙げる。

次鋒戦。長身西潟は左釣手で西山の奥襟を狙うが、西山にうまく組まれて攻め手を欠く。一方の西山も自分の組み手を続けるが、西潟の体格と動きに気圧されて技が出ず、両者ポイントのないまま試合が進行する。しかし、中盤を過ぎると西山の動きが激しくなり、西潟は守勢に回り始める。こうして迎えた3分43秒、西潟が不十分な体勢から右前に出ようとするところを、西山がうまく合わせて左支釣込足で体を捻ると西潟は横転し、技ありとなる。その後は、西山は西潟の組み手を封じて反撃を許さず試合終了。

中堅戦。塘内は世界選手権代表で今年の全日本チャンピオンの高橋に対し、老獪な試合運びで攻撃の暇を与えず、はやる高橋を巧みに捌き、一つのポイントも許さず引き分ける。

副将戦。同じ体型の両者は左右のケンカ組み手。攻勢の増淵が試合の主導権を握るも、1分8秒と2分41秒に不注意な指導を受けて、齋藤にリードを許す。しかし、増淵は3分53秒、場外際でもつれたところを左小外刈で有効を奪い、タイに持ち込む。その後は、両者一進一退の攻防を続けて引分。

大将戦。内容差でリードする旭化成は、体格で圧倒する大鋸でじっくり進めたいところであったが、序盤、大鋸は積極的に吉永を追い詰める。吉永も逆転の勝機を探る。しかし、中盤を過ぎる頃より、疲労の色が濃くなって動きの止んだ大鋸に2分55秒指導1が与えられる。大鋸は秒を追う毎に消耗が激しくなり、潰れた吉永への寝技の機会も自ら放擲。そして4分には遂に指導2を受ける。その後、リードを奪われた大鋸はふらつきながらも反撃に出ようとするが、吉永の低い袖釣込腰に倒れ込み、残り29秒にはそのまま横四方固で抑えられて万事休す。新日本製鐵が仇敵旭化成を逆転で降し、4年ぶりの決勝戦進出を

決める。

決勝戦

今年の全日本選手権を争った高橋、立山をエースに抱く2チームによる決勝戦は、エキサイティングなシーンの連続となった。とりわけ大将戦の終盤から、代表戦に至る攻防は大会史上稀にみる死闘となって、両チームは最後の最後まで筋書きの無いドラマを演じ続け、ラスト2秒にようやくドラマチックな戦いの幕を閉じた。

日本中央競馬会		1	-	新日本製鐵	
(先鋒)	山本 宜秀 4段		引分	齋藤 俊 3段	
(先鋒)	片淵 慎弥 4段		(指導2) ⊖	高橋 和彦 4段	
(中堅)	立山 広喜 4段	⊖	(小外刈)	西山 将士 4段	
(副将)	石井 竜太 4段		引分	森田 祥一 3段	
(大将)	鈴木 龍 4段		引分	吉永 慎也 4段	
(代表)	立山 広喜 4段		合せ技	高橋 和彦 4段	

先鋒戦。同一階級同士の対戦。上背で上回る齋藤は右釣手を上から前襟を掴み、山本は左で下から釣り上げて、互いに引き手を求め合う。序盤、山本が左内股を連発し、1分13秒受けに回った齋藤に指導1。その後は、両者組み手不十分ながら、齋藤は内股、山本は内股、大内刈、体落の応酬となるが、互いにポイントを奪えず時間。

次鋒戦。共に100kg超級ながら身長で15cmの差のある両者、高橋は片淵にうまく捌かれて組めず、片淵は無理に組まず、共に1分10秒指導1を受ける。その後も両者の奥襟の奪い合いが続くが、終盤に入り体力で上回る高橋が組み手を支配し始め、頭の下がった片淵に4分16秒、2度目の指導。その後も高橋は攻撃を続けたが、片淵が何とかしのいで時間。新日本製鐵が1点先取。

中堅戦。中堅戦は身長、体重とも他を圧倒する立山の登場。対する西山は身長で14cm、体重で60kgのハンディを背負う。序盤は、西山が立山に組み止められる前に、先手を取って動いて立山の攻撃を封じる。ところが、中盤の

2分前、上から奥を叩きに来る立山を背負投で応じようとした西山の右足に、立山は小外刈から体を浴びせて横転させ、1分59秒に有効を奪う。その後、勢いづく立山に対し、西山は組み際の体落、足技で機先を制し、技の止んだ立山に2分59秒指導1が与えられる。終盤も西山は体落、内外の足技で立山を翻弄し続けるが、惜しくもポイントを奪えず時間が来る。結果は両チームタイに並ぶ。

副将戦。巨漢同士、新旧の対戦は、ケンカ組み手の両者が自分の組み手に拘って、手数も出ない単調な戦いに終始。見るべき技は森田のラスト17秒の左払巻込のみ。両者1分37秒、3分18秒に共に指導を受けて引分。

大将戦。さながら国士舘大学のOB戦の如き両チームの対戦は、雌雄を決すべき大将戦も同校OB同士の戦い。身長はほぼ同じながら体重で43kg軽い吉永は、鈴木を組ませず間合いを取って戦い、ヒット&アウェイならぬアウェイ&ヒット、組み際の巴投、右背負投、左袖釣込腰で時を稼ぐ。鈴木は吉永を押し込むものの、技の作りを行うまでに吉村に仕掛けられては離される。鈴木はこうした吉永の術中に嵌まり、3分19秒で指導1を受ける。ラスト1分前には吉永の左袖釣込腰で崩されて伏せたところを裏返しにされ、残り41秒に上四方固で抑えられる。これで万事休すかと思われたが、鈴木はここで渾身の力を振り絞り13秒で逃れる。吉永は猶も寝技で攻め続け、立ち上がった時は残り18秒。主審は鈴木に指導2を取り、勝負あったかと思われたが両副審がこれを取り消し、鈴木は命拾いする。吉永は目の前の勝利を逃して惜しくも引分。勝負は代表戦で決することとなった。

代表戦。両チームエースによる代表戦は今年全日本選手権決勝戦の再現となった。左組みの両者は互いに奥襟を争い組み合わず、1分過ぎに共に指導1を受ける。その後は体格で勝る立山が組み手優位に立ち、盛んに大外刈を繰り出し押し気味に進める。2分20秒には守勢の高橋に指導2。しかし、後半に入って高橋が大外刈、内股で反撃を開始。3分16秒、立山に鼻血治療があって再開後、立山に指導2が与えられる。ポイント同数となった終盤戦。高橋の攻撃が激しくなり、立山が受ける場面が多くなるところ、高橋の大外刈に左足を開いて捌いた立山が、空振りでも後ろ向きになった高橋の後腰に抱き付き、谷落に体を捨て残って、残り50秒に有効を奪う。ようやく勝負あったかに見えた残り時間僅か、抜群のスタミナと諦めない勝負執念を見せる高橋は猛攻撃に入り内股を連発。立山はこれになすすべもなく高橋の攻撃を受け続け、そして時間切れ寸前、高橋は追い込みながら奥襟を掴み大外刈から左払巻込に変化すれ

ば、立山の巨体は体勢を崩して大きく転がり、主審が技ありを宣告する。時計は残り2秒を表示。高橋はそのまま崩壊装固で抑え、諦めた立山は仰向いたままに20秒経過。高橋が劇的な一本勝で逆転優勝、新日本製鉄に実に10年ぶり、通産30度目の優勝をもたらす。